

審判員派遣報告書

派遣事業名	第54回マクドナルド 全国ミニバスケットボール大会	派遣期日	令和5年3月29日～31日
報告者	高田 開	派遣先	国立代々木競技場 第一体育館・第二体育館

1. 大会概要

大会名称	第54回マクドナルド 全国ミニバスケットボール大会	大会期間	令和5年3月28日～3月31日
大会概要	男女48チームずつによるリーグ戦。優勝は決めない交歓大会として実施された。		

2. 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和5年3月29日	会場	代々木第一体育館
審判クルー	CC：江澤 氏（千葉県） U：高田		
担当試合	（女子）福岡県 vs. 山口県		
試合内容	前半から激しいプレスDFで福岡県が大量リードを奪う。山口県も最後まで追いつくが、総合力で上回った福岡県の勝利。		

日程	令和5年3月30日	会場	代々木第二体育館
審判クルー	CC：大塚 氏（福岡県） U：高田		
担当試合	（男子）大阪府 vs. 広島県		
試合内容	両者ビッグマンを揃え、ゴール下の激しいせめぎ合いのなか大阪府が一步リードで前半を終える。広島県も攻め手を変えながら反撃を試みるが、点差は詰まらず大阪府の勝利。		

日程	令和 5 年 3 月 31 日	会場	代々木第一体育館
審判クルー	CC：恩田 氏（島根県） U：高田		
担当試合	（男子）長野県 vs. 埼玉県		
試合内容	第 1Q でスタートダッシュに成功した長野県。セカンドチャンスをもものにして攻撃の手をゆるめることなく点差を広げる。埼玉県も終盤、プレス DF で粘りを見せ連続得点するが、届かず試合終了。		

3. 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

点差が開いたゲームへの審判としての関わり方について

担当した 3 試合のうち、2 試合はゲーム前のスカウティングから、「点差が開くかもしれない」と PGC で話をしてゲームに入り、その通りのゲーム展開となった。点差が開くゲームを担当することは県内でもカテゴリー問わずしばしばあるが、そのたびゲーム後反省で、「基準をどうすればよかったのか」と会話しその場限りの答え合わせになって終わってしまうことが多いように感じる。今大会このようなゲームを担当して感じたこと、また先日の YOC2023 で学んだことと合わせてここに記す。

点差が開くゲーム、僅差のゲームに関わらず、審判としてはゲームに基準を設け、ゲームを通して一貫した判定を保つために序盤テンポセッティングを行う。対戦チームが同レベルのバスケット技術を持つチーム同士なら、判定基準を設けやすいかもしれないが、そうでない場合、この作業は難しくなると感じている。これまで、審判としては競技規則どおりの判定をし続けることしか考えていたが、しかしそれでは掲題のようなゲームに関わる際どうしても、どちらかが審判の判定に疑問を持ったり、バスケットを楽しく思えないだろうゲームになってしまう。

競技規則を改めて読み返し、審判は単に規則どおりの判定だけをし続ければよいのではないことがまえがきに書かれてあった。「①審判は規則を堅持して②プレーヤーの足りないところを補いつつこれに健全な方向を与えるとともに、③そのゲームを公正かつ円滑に運営することによって④すべての人に信頼されなければならない。」とあり、②で示した部分がポイントとなるのではないかと考える。②が抜けていては、上述のとおり④が得られない。掲題のゲームを含めどんなゲームでもすべての人に信頼されるために、規則を堅持することを大前提とし、規則の範囲内で②のための両者にとって必要な判定を下すことは差し支えないと考える。これは、例えば OOB の判定はラインを超えたか超えていないかの判定であるため“幅”がないのに対し、ファウルはコンタクトによる影響を考慮すればリーガルとイリーガルの間にマージナルという“幅”を持たせることができるようなイメージであると思う。ここで、「判定基準が異なるのでは」と指摘があるならば、①をもって納得のいく説明をすることができるはずである。③ゲームを公正かつ円滑に運営するための術としてコミュニケーションやプレゼンス、正しく処置を行うこと等があり、①と②と③が揃って④が得られると解釈する。ただし、②と③を遂行する力を身に着けるためには、まず①が大前提であり、競技規則の章条に忠実であろうとする努力を一番にしなければならないと改めて感じた。これと同時に、審判に①だけが求められるのなら機械で事足りるが、②が必要とされることが審判の存在意義であり、むしろ審判の楽しさとも考えることができるのではとも感じた。

YOC2023 では、コミュニケーションについての話題が多く、様々なコミュニケーションスキル、考え方の教示があったが、何より競技規則の正確な理解があつての二の次であることを強調されていた。今回、掲題の疑問について考えた際、まず競技規則に戻り、私自身で納得のいくものを導き出すことができた。全国ミニ大会、YOC2023 を通して、競技規則を正確に理解することの大切さを再認識し、さらに体験的に理解を深めるためのプロセスを一段踏むことができた。

4. その他

この度は、表題の大会に派遣いただきまして誠にありがとうございました。2年連続の参加となり、準備を含めて余裕を持って大会に臨むことができ、昨年とは違う課題を持って帰ることができました。仲地審判長をはじめ、日ごろお世話いただいております香川県の皆様に深く感謝申し上げます。

学びを県内・若手審判員に共有し、県全体でのレベルアップに寄与したいと考えております。引き続き、よろしくお願いいたします。